

栽培種目：長いも（とっくり型 60 本）

山芋栽培（4 年目）過去の失敗を改善しチャレンジ

チーム名：酒井根ファームのやまいもチーム

氏 名：藤原孝雄、福井清秀、山田幸夫、他

〔要約〕

長いもは掘るのが大変！市販のクレバーパイプの代わりに安価な建築養生材を使用し、長いもを水平に育て収穫時の省力化を図る。過去3年の失敗を改善して酒井根ファームで60本（2m×9mに2畝）の栽培をする。昨年は台風15号で棚が蔓ごと飛ばされ9月での収穫となったが思いのほか芋は出来ていた。しかし先端が黒く腐った芋が発生したので筒の中の土に原因があると考え無菌の鹿沼土と赤玉土と畑の土を比較しました。実施した結果を報告します。

1. 初めに

長いも（とっくり型 30 本）は購入。昨年の芋の先端を保存したのも 30 本を使用。

- ① 収穫時（芋ほり）の労力を楽にしたい。
- ② 狭小地で沢山の収穫をしたい（60 本）
- ③ 建築の仮設養生材（ウレタン）を加工して市販のクレバーパイプ（600 円）の 1/4 の価格（150 円）で低コスト化を図る

2. 方法

- ① 建築の仮設養生材（昨年使用）の筒の下端全面に幅 15 cm×80 cmの厚手のビニール（肥料の空袋切断）を敷き長いもの貫通を防止する。（昨年は種芋の直下に A4 のクリアファイルで芋がファイルの先で下に貫通した）
- ② これを 30 cm 間隔で縦にずらして 15 度

の角度をもって埋め、長いもを横に誘導する作戦（60 本）

- ③ 筒の中の土を無菌の①鹿沼土 100%と②鹿沼土 50%赤玉土 50%と③鹿沼土 30%赤玉土 70%と④赤玉土 100%と⑤畑の肥料分のない土（80 cm程掘った赤土）の5種類の土で比較する。
- ④ 種芋は購入したものを使用。

3. 実施記録（経過）

4月28日 長いもの種芋を定植（購入種芋 30 本、昨年の収穫時に長芋の先端を保存した種芋 30 本）を植付



建築の養生材（長さ 180 cmから 2 本加工）



2019 年の長芋の病気（尻が黒く腐る）



5 月 5 日鹿沼土と赤玉土を配合



上から①鹿沼土 100%、②鹿沼土 50 赤玉土 50%、③鹿沼土 30%赤玉土 70%、④赤玉土 100%



誘導パイプをセット（種芋セット前）



12 月 15 日収穫する。上から①②③④



①鹿沼土 100% 長芋の長さ 47 cm



②鹿沼土 50%赤玉土 50% 長さ 47 cm



③鹿沼土 30%赤玉土 70% 長さ 52 cm



⑩鹿沼土 0%赤玉土 100% 長さ 71 cm



⑪畑の 80 cm下の赤土 100% 長さ 105 cm
(誘導パイプの長さ 90 cm)



4、考察

長いもの長さ④47 cm、⑤47 cm、⑥52 cm、
⑩71 cm、⑪105 cmであった。

鹿沼土は PH4~5 で酸度が強い、赤玉土は PH6 程度の弱酸性で両者とも関東ローム層から産出され無菌であり、通気性、排水性、保水性が良い土である。文献によると長いもの誘導パイプの中の土は無菌の土が良く、地表は苦土石灰を蒔くとのことであった。結果として長芋の長さからみると酸度の強い鹿沼土は不向きで赤玉土が多くなると長く成長する。畑の 80 cm下の肥料分の無い関東ローム層の黄土色の土が最も長く太い長いもの(平均 80 cmくらい)となった。深いので養分もなく雑菌も少ない為と思われる。

5、まとめ

誘導パイプの土はあえて無菌の赤玉土を購入する必要もなく畑の下の肥料分のない粘土層の土を利用することで十分と思われる。今年台風もなく蔓も自然に枯れた為か芋の尻が腐れる現象もなく良い出来であった。

次回は長芋の種芋作りに挑戦

今年ムカゴから種芋を育てたが写真の結果となった。



ムカゴからの長芋 18 本 (10~20 cm) 1 年生



市販されている長いもの種芋は 40~50 cm で揃っている為ムカゴから 1 年ではできな
いと思われる。むかごから種芋を量産できれば長芋の数をたやすく増やすことができる。**長いもの 100 本栽培に挑戦。**